

豊能町のスマートシティに向けた取り組みについて【概要】

スマートシティとは



目的

- IoTの先端技術を用いて、基礎インフラと生活インフラ・サービスを効率的に管理・運営し、環境に配慮しながら、住民の生活の質を高め、継続的な経済発展を目的とした新しい都市をめざすもの。
- 大阪府においても2025年大阪・関西万博に向け、大胆な規制緩和等による最先端の取組と、府域全体で住民に利便性を実感してもらえる取組を両輪として、大阪モデルのスマートシティの基盤を確立し、e-OSAKA（先端技術を活用することで住民が笑顔になる大阪）を実現するための戦略を定めている。

基本姿勢

- 住民が実感できるかたちで、「生活の質（QoL）向上」をめざすことが主目的
：技術ありきでなく、具体的課題からアプローチ → 住民が実感できるかたちで生活を変える
- 公民連携による「民間との協業」が大前提
：企業が持つ先端技術やアイデアと連携し、新たな解決策を見出す
- 「技術実験」に留まらず、「社会実装」のための取組を蓄積
：万博に向けた官民の動きを最大限活用

大阪スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)とは

概要

- OSPFは、“大阪モデル”のスマートシティ実現に向けて、企業やシビックテック、市町村、大学等と連携し、地域・社会課題を解決していく「公民共同エコシステム」として令和2年8月に設立(300超の企業・団体が参加) ※プロジェクトコーディネーター企業は、**16企業**

6分野でのプロジェクトがスタート

- 令和2年11月、市町村や民間企業との連携した取組を通じ、「高齢者にやさしいまちづくり」「健康都市の実現」など、技術視点ではなく、**市町村の視点から、ボトムアップで6つのテーマにおいて公民共同プロジェクトを開始。エコシステム化を促進し、令和3年の実装をめざす。**

～6つのテーマ～

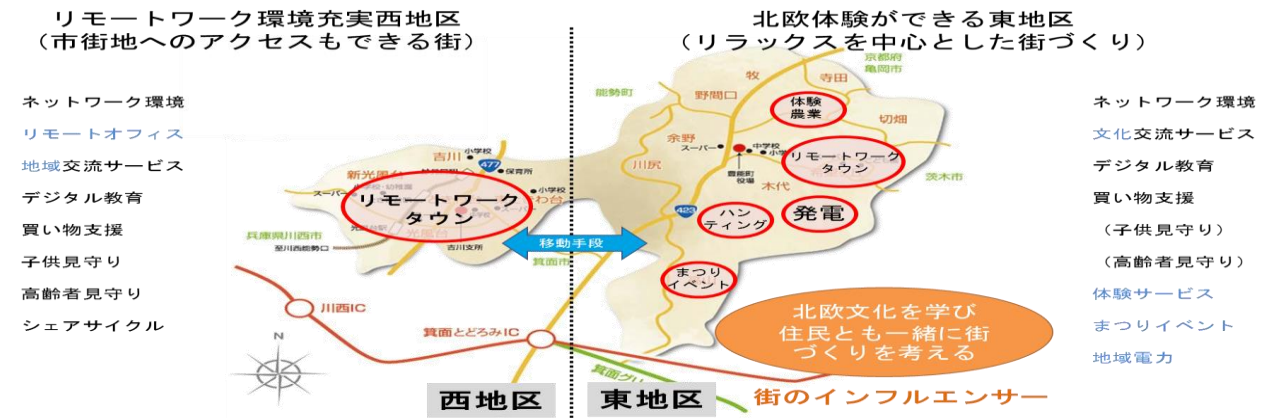
- ①スマートヘルスシティ ②高齢者にやさしいまちづくり ③子育てしやすいまちづくり ④移動がスムーズなまちづくり ⑤インバウンド・観光の再生 ⑥大阪ものづくり2.0

豊能町のかかわり（これまでの経過）

- OSPFの立ち上がりを受け、令和2年9月の市町村課題見える化ワークショップに参加。あわせて、高齢者にやさしいまちづくりワーキングに参加し、企業へプレゼンテーションを実施。
- プレゼンにより、大阪府スマートシティ戦略スーパーアドバイザーの江川氏やコーディネーター企業に興味を持っていただく。
- 令和2年10月より、プロジェクトの実証実験フィールドとして豊能町が可能か、江川氏及びコーディネーター企業と検討を進めてきた。
- **令和3年3月25日のOSPFプロジェクト発表会にて、町長及び江川氏による課題解決モデルプロジェクトを発表。実装に向けて具体的な取り組みを進めていくこととなった。（課題解決のためのプロジェクトを豊能町をモデル地区にして進めていく。）**

豊能スマートシティ戦略プロジェクトの内容 ～高齢者・子育て世代にやさしいまち～

○まちの資産を有効に活用して、まち全体の活性化をめざす



○組み入れるサービス検討（24企業・団体が支援参加）

➢ 子育てしやすい

IoT機器（LPWAやカメラなど）を活用した子どもの見守り
GIGAスクール環境における教育内容の拡充（海外との交流）

➢ 高齢者にやさしい

買い物支援サービス（移動販売、宅配BOXなど）

➢ 移動がスムーズ

電動ゴルフカートなどの利用や独自交通サービスの提供
AIオンデマンドシステム、シェア電動自転車の提供

スケジュール

スマートシティの発信拠点・実験場(池泉光風台)

企業等による研究開発・実証実験等を加速度的に推進

実用化へ

第1フェーズ
＜行政DX＞
行政サービスなどすぐにできることから実践

第2フェーズ
＜地域・企業DX＞
実証実験を通じて先行事例蓄積

第3フェーズ
＜都市DX＞
実証から実装へ。都市全体の利便性向上

スマートシティの
基盤を確立